

行政視察報告書

中核市移行特別委員会行政視察		令和元年8月28日(水)～29日(木)
視察先 及び 視察事項	・令和元年8月28日(水)	1 中核市移行について
	山形県山形市	ア 中核市移行の経緯（議会の対応含む）
		（ア） 中核市移行の目的、メリット
		（イ） 移行に伴う組織、推進体制、施設並びに専門職員の確保、育成
		（ウ） 県との協議・調整・連携における課題
		（エ） 移行に伴う経費と財源措置の精査
		（オ） 市民への周知、説明に対する課題と対応（合意形成）
		イ 市の特徴的な施策について
		ウ 保健所関連施設の設置について（保健所現地視察含む）
		（ア） 設置の概要
		（イ） 既存施設（保健センター等）との一元化の対応と今後の課題
		（ウ） 関係団体との調整・対応
		（エ） 市保健所の将来像
		（オ） 食肉衛生検査施設設置の概要と課題
	・令和元年8月29日(木)	1 中核市移行について
	埼玉県川口市	ア 中核市移行の経緯（議会の対応含む）
		（ア） 中核市移行の目的、メリット
		（イ） 移行に伴う組織、推進体制、施設並びに専門職員の確保、育成
		（ウ） 県との協議・調整・連携における課題
		（エ） 移行に伴う経費と財源措置の精査
		（オ） 市民への周知、説明に対する課題と対応（合意形成）
		イ 市の特徴的な施策について
		ウ 保健所関連施設の設置について（保健所現地視察含む）
	（ア） 設置の概要	

	(イ) 県保健所併設における課題と対応
	(ウ) 保健センターとの一体的な業務提供と 今後の課題
	(エ) 関係団体との調整・対応
	(オ) 市保健所の将来像

1、 山形市

保健所設置について

山形市保健所は平成 31 年 4 月 1 日に設置された。
平成 27 年から解説へ向けて取り組みが開始され、約 4 年間かけて設置された。

組織及び主な業務内容

…山形市保健所設置基本計画に基づき、保健所が担う専門的な業務と山形市がこれまで担ってきた業務を併せて実施することにより、保健衛生行政全体をパワーアップさせるため、市保健所へ保健衛生行政を集約し保健衛生にかかる市民サービスを一体的に影響する体制を構築することとした。具体的には従前の健康課（市役所本庁内）と保健センター（霞城セントラル内）を市保健所の組織として統合・再編することにより母子保健から健康づくり、医療、生活衛生を含めた総合的な保健衛生行政を市保健所が一体的に実施することとした…

職員配置

合計 107 名（平成 31 年 4 月 1 日）の体制で業務が行われている。

実施する検査

官民複合ビルのため、費用や期間・構造上の理由から検査施設を設置することは困難だったため、独自の検査体制を構築するまでの間、検査業務の大部分を県へ委託することとし、霞城セントラル内では、有害物質を使用しない簡易な検査（顕微鏡を用いた遺物検査）を実施することとしている。

課題

人材育成が重要である

- ・と畜経験が無い獣医師が多くいた
- ・経験豊富な県の医師を軸として育成した
- ・派遣依頼については、市が全額負担した。
- ・県も人材確保が満たない中で市へ派遣は苦しい
- ・中核市移行までの 3 年以内に育成しなければならない

市民周知

メリットについて市民に伝えるのは難しい部分もあったとのこと。

感想

人材の確保をはじめ、短期間で形にしなければならないことから、現場の大変さが伝わってきました。

特に、県との関係が重要と感じました。山形県の協力姿勢が厳しかったようなお話もあり、松本市も県との良好な連携が重要と感じました。

2、川口市

中核市移行について

平成 26 年 2 月 市長が中核市移行を表明

平成 30 年 4 月 1 日中核市移行・保健所設開所

中核市移行の目的・メリット

県からの権限移譲により市民が自ら判断できる権限を拡大し市民への質の高いサービスの提供や、市の実情に合ったまちづくりが可能となる。

・行政のサービスのスピードアップ

これまで市を経由していた県の仕事を市が一括して行うようになるので、決定までの時間が短縮される

・きめ細やかな行政サービスの提供

市民に身近な市によって地域の実情に合わせたこれまで以上にきめ細やかな対応が可能になる。

・市独自の取り組み

市が市域の状況や課題を把握し、地域の実情に合わせた条例、計画など施策を展開できる。

・中核市移行に伴う経費と財源措置の精査では、

移譲事務にかかる歳入見込み額・・・2, 238百万円

移譲事務にかかる歳出見込み額の合計・・・2, 238百万円

決算前ではあったが、おおよそプラスになる見込みとのことでした。

川口市保健所 平成31年4月1日現在・・・職員数154名（H30年より2名増員）

保健所設置では、医療安全相談や、精神相談について、多くの相談が来ているようで、実績を上げているとのことでした。

課題

市民が中核市移行について移行前年、平成29年意識調査を実施。移行について知らないと答えた市民が54、5%と高く、移行への認識が低かったという。

そのほか、特徴ある取り組みの検討

感想

川口市は健人の関係は良好で鋭意取り組みが進められた経過をお聞きしました。

人材については、医師以外の確保は比較的困らなかったという。

中核市移行に伴う、財源確保や、収支について、おおよそプラスの見込みになるとのことで、松本市としても一定の方向性が見いだせる気がしました。

まとめ

山形市、川口市どちらも、人材確保、人材育成が重要ということ、また、市独自の施策についても市が独自に設置することにおいては重要性を感じています。

中核市移行について、なかなか市民に関心を持ってもらえない中で、多くの市民に関心をもってもらえる取り組みが必要と感じました。

令和元年 9月18日

松本市議会議長 村上 幸雄 様

中核市移行特別委員 上條 美智子